

講義名	基礎簿記		
科目区分	専門基礎科目		
担当教員	木村 敏夫		
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 1時限		
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		講義コード	31015

主題と概要

経済単位が行う経済活動（経済的資源の配分）を、認識、測定、記録、計算、分類、整理、要約、報告する方法が「会計」である。その会計の技術的な側面を担うのが「簿記」と言える（帳簿記録の略称とも言われる）。簿記は会計の一側面として考える。

「基礎簿記」はその対象を生産経済としての「企業」（会社）の「簿記」（企業複式簿記）に限定し、企業簿記の基礎構造〔記録計算等〕を理解することにある。

生産経済を営む企業の「経済（事業）活動」を記録、計算、分類、整理する技術である企業複式簿記の仕組みを基礎から始める。「企業」の設立、営業の開始、営業活動、営業外活動、経済活動の成果を一定期間に区切り（決算）、これを報告書（財務諸表）に要約する方法が講義内容となる。経済活動を財務諸表に要約し、開示することが会社法などに会計諸規定されていることから、経済活動の認識測定報告等は会計諸法規（例えば、会社法、企業会計原則、企業会計基準等）と関連することから、一定範囲で会計規則等にも言及する。

到達目標

会計機能のうち、「簿記」がもつ基本機能等を理解する。

提出課題

予定していない。

評価の基準

評価方法は中間試験（50％）・定期試験（50％）で行う。

履修にあたっての注意・助言他

「簿記」は、一面技術である。技術は、時間をつかい習う、磨く必要がある。また、技術は、一旦、使わなくなると失われる可能性がある。したがって、受講者は、簿記の理解には会計現象の記録行為を各自で処理・学修する必要がある。

教科書

.検定簿記講座3級商業簿記（平成31年度版）. 渡部・片山・北村編著 中央経済社 700

プリント資料及び参考文献

必要に応じて、一部、プリントをポータル(PDF)または講義室で配布する。
 【参考書】
 ジャコブソール『帳簿の世界史』（文春文庫）

授業計画

- 第1講 簿記の定義・目的
- 第2講 複式簿記の構造（1）
- 第3講 複式簿記の構造（2）
- 第4講 簿記会計の言語・簿記における認識・測定
- 第5講 取引の記録と勘定の表示分類（1）
- 第6講 取引の記録と勘定の表示分類（2）
- 第7講 取引の記録と勘定の表示分類（3）
- 第8講 取引の記録と勘定の表示分類（4）
- 第9講 取引の記録と勘定の表示分類（5）
- 第10講 取引の記録と勘定の表示分類（6）
- 第11講 取引の記録と勘定の表示分類（7）
- 第12講 取引の記録と勘定の表示分類（8）
- 第13講 決算の処理（1）
- 第14講 決算の処理（2）
- 第15講 財務諸表の作成

予習・復習

当然のことです。

備考

大学の講義は、学問・学科目を「理解する」のが目的・目標する。体系的な理解の後に、理解した知識をもとに、「考える」。これが「知恵」となる。知恵は自分でしか取得できない。与えられるものではない。学後知不足。学生は、「真似ること」から始める。真似るとは、「書き写す」ことではない。書き写すは、著作権違反という、りっぱな窃盗犯罪です。